

第50号

令和8年(2026年) 3月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部



年頭のご挨拶

同窓会会長
船本秀忠



謹んで新春のお慶びを申し上げます。
兵庫教育大学大学院同窓会員の皆様におかれましては、希望に満ちた令和八年の新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。平素より、本同窓会の活動に對しまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、近年の教育を取り巻く状況は、社会の急速な変化とともに大きく様相を変えております。多様化・複雑化する教育課題への対応、教育の質の向上、さらには次代を担う人材の育成など、教育に携わる私たちに課せられた責務は、ますます重要性を増しております。このような時代にあつて、本学大学院で培われた高度な専門性と実践的知見を有する同窓生の存在は、教育の現場を支える大きな力であると確信しております。

本同窓会といたしましては、これまで先達が築き上げてこられた伝統を大切に継承しつつ、世代や地域、専門分野を越えた交流の促進に努め、同窓生相互の連携と研鑽を一層深めてまいりたいと存じます。また、母校である兵庫教育大学大学院との連携をより強固なものとし、教育・研究の発展と後進の育成に寄与する同窓会活動を推進してまいります。

今後とも、会員の皆様のご理解とご支援を賜りながら、役員一同、誠心誠意その職責を果たしてまいれる所存でございます。結びに、本年が同窓会員の皆様にとりまして、心身ともに健やかで、実り多き一年となりますことを祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

ご挨拶

兵庫教育大学学長
森山 潤



大学院同窓会の皆様には、平素より本学の教育活動や研究活動に多大なご支援をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

今年度より、学長に就任致しました森山です。また、森理事・副学長、秋光理事・副学長、北崎副学長・事務局長、永田副学長、藤原副学長がそれぞれ新たに就任致しました。新執行部一同、改めまして、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、ご存知の通り、本学は現在、教員養成フラッグシップ大学事業を推進しております。今年度、四年目となり、順次、先導的な教職科目を展開しています。また、他大学への実装を視野に、横展開の試行的実践を開始しました。本学の特徴は、「令和の日本型学校教育」の考え方をベースに、一部の科目を新設・追加するというレベルに留まらず、先導的な教職科目を含めて、「学び続ける教師の育成」を目指して、教職課程全体をスクラップ&ビルドした点にあります。そのため、教職課程の指針となる教員養成スタンダードも刷新しました。

現在、中央教育審議会教員養成部会では、次期学習指導要領の改訂に伴う教員

養成のあり方が議論されています。ここでは、新たな教職課程の構築に、教員養成フラッグシップ大学の取り組みの成果が生かされることになっていきます。今後の議論を注視しながら、本学の取り組みを進め、その成果を積極的に発信し続けてまいります。

その他、大学の近況についても少しご紹介したいと思います。まず、神戸キャンパスを神戸市のハーバーランドから新長田に移転・拡充し、今年度より本格運用が始まりました。次に、日本語教員養成プログラムが認可され、次年度より運用が始まる予定です。また、ひょうご地域教員養成プログラムも、来年度の受験生から入試が始まることになりました。

このように兵庫教育大学は、常に社会の変化に対応しながら機敏に変化し続けてまいります。同窓会の皆さまには、今後とも一層のご支援を宜しく願致します。

あなたの力で教育は変わる。

兵庫教育大学基金へご寄附いただく方法と加東市の実施するふるさと納税を通じてご支援いただく方法があります。

 兵庫教育大学基金
HIROSHIMA UNIVERSITY OF TEACHER EDUCATION FUND

加東市ふるさと納税を通じての寄附も出来ます。 → 

役員紹介

今年役員改選の年でしたので、新役員(会長・副会長・専門部長・ブロック長)の紹介をします。



会長
船本秀忠 (9期)
伝統を大切に継承し世代や地域専門分野を越えた交流の促進、同窓生同士の連帯。



副会長兼近畿②ブロック長
雲井稔 (29期)
常に忘れずにいたい、「大学院で学んだのは何のため」



副会長兼広報部長
渡邊哲郎 (3期)
支部のつながり会員同士のつながりを深めたいものです。



総務部長
八木真由美 (14期)
若い世代も活動に参加したくなる同窓会を目指しましょう。



組織部長
梶原正史 (5期)
未来に向けた同窓会組織の構築を目指します。



会計部長
佐々木勇 (5期)
職場を退職してから、地域貢献と米作りに頑張っています。



北海道・東北ブロック
小山文明 (17期)
ブロックとしての活動の在り方を模索し、活性化を図っていききたいと思います。



関東ブロック
清水政義 (2期)
ひとの和を大切にしたいと思っています。



中部・東海ブロック
加藤有悟 (21期)
会員間の交流を着実に進めていきます。



近畿①ブロック
仲島尚子 (20期)
兵庫県大会にぜひお越しください。お待ちしております。



東中国・四国ブロック
鷲見寛幸 (17期)
ブロック6県の連携を深めます。



西中国ブロック
津田和也 (13期)
活動の活性化。



九州・沖縄ブロック
草場聡宏 (12期)
支部活動、ブロック活動が活性化できるよう頑張ります。

令和6年度 退任役員

同窓会役員をお務めいただき、本会の発展にご尽力くださいました次の方々、令和6年度末をもって役員を退かれました。本部活動はもとより、支部活動の牽引役としての功績は非常に大きいものです。これまでのご貢献に深く感謝の意を表します。
また、一定の要件を満たされた方には感謝状と記念品をお贈りいたします。

氏名	支部	期	退任時の役職
西澤 亨一	青森	28	青森県支部代表
駒田 郁夫	栃木	16	栃木県支部代表
野田 不二夫	東京	1	東京都支部代表
森 社	岐阜	4	中部・東海ブロック長
徳永 加代	大阪	19	近畿②副ブロック長
井上 温子	大阪	27	大阪府支部代表
田中 嘉明	兵庫	1	監事
西端 幸信	和歌山	12	和歌山県支部代表
門屋 浩愛 媛		12	理事

令和7年度 兵庫教育大学大学院同窓会役員

Table with 6 columns: 会長 (船本秀忠), 副会長 (渡邊哲郎), 専門部長 (梶原正史), 相談役 (武泰稔), 監事 (北山鎮道), 事務局長 (山口文和).

Table with 2 columns: 支部代表 (水野和男, 池田真理子, 山本勉, etc.), 理事 (村石好男, 山本勉, 牧雅英, etc.).

※青字は新任役員

※青字は新任支部代表、ゴシック体は役員等との兼務

兵庫教育大学大学院同窓会 第43期(令和6年度)会計決算報告

【一般会計】(収入の部)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(円), 決算額(円), 増減(円), 摘要. Rows include 繰越金, 会費, 共同研究経費, etc.

収入決算合計 9,317,032 円

支出決算合計 4,469,312 円

差引残高 4,847,720 円

差引残高は、第44期一般会計の収入(繰越金)に充てます。

(支出の部)

Table with 5 columns: 科目, 予算額(円), 決算額(円), 増減(円), 摘要. Rows include 役員会費, 事務費, 印刷製本費, etc.

【運営積立金会計】

運営積立金は、同窓会活動の継続および必要不可欠な出費に備えて平成29年6月より定額預金(10年満期)として預けているものです。

Table with 3 columns: 科目, 金額(円), 摘要. Rows include 預入額①, 貯金利子②, 税引後元利合計金額(①+②-③).

《お問合せ》

兵庫教育大学大学院同窓会事務局 兵庫教育大学修了生・卒業生連携センター 〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1

令和7年度 兵庫教育大学大学院同窓会総会

第44回全国研究大会【高知大会】

令和7年7月26日(土) 高知オーテピアにおいて大学院同窓会総会・全国研究大会【高知大会】が開催されました。南国土佐の暑い中、熱い大会となりました。高知から来賓として、高知県教育委員会 今城純子教育長から温かい祝辞をいただき、高知市教育委員会からも歓迎のご挨拶をいただくなど、県市を挙げて歓迎してくださいました。

大会テーマの目指す「学校教育に社会教育・生涯学習の横ぐしをさす」を軸にした発表と、明治維新の原動力土佐の熱い思いが伝わってくる素晴らしい大会でした。

高知大会実行委員長
野村 ゆかり



令和7年度兵庫教育大学大学院同窓会総会及び第44回全国研究大会【高知大会】を、高知県教育委員会、高知市教育委員会の後援を受け、本県で今回初めて開催しましたところ、全国各地から、オンライン参加、一般参加も含め、73名(会場68名、オンライン5名)という、想定を超えた方々にご参加をいただき、東中国・四国ブロック、高知支部会員一同、心より感謝しております。

大会テーマを「一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える学校教育・社会教育の展開〜未来のまちづくり・ひとづくり・つながりづくりを基盤として〜」として、研究実践発表では、「学校教育に社会教育・生涯学習の横ぐしをさす」を軸にした実践を高知から全国へ発信することができました。

さらに、記念講演におきましても、『漫画と文化と生涯学習』 高知の漫画文化の流れ』について、横山隆一記念まんが館 田所菜穂子前館長の熱い思いとともにお聴きすることができました。

さらに、参加者のほとんどが参加された懇親会では、「鯉の羹焼き」や「よさこい踊り」の体験、地酒の飲み比べなど高知の風土とフードを堪能していただけたものと思っております。

本大会が有意義な研究大会となり、ご参加いただいた皆様に交流を通して、元氣と希望を与えることができ、成功裏に終えることができましたのは、東中国・四国ブロックの実行委員会スタッフやボランティアの結束の賜物だと自負しております。

至らなかつた部分も数多くあったことと思ひますが、ご参加くださった皆さんが、本大会の中で学んだことや感じたことを、同窓会員皆様のこれからの研究や実践に生かしていただけるよう、心より願っております。

改めて、大会に関わってくださいました全

ての方々に感謝とお礼を申し上げます。たいへんありがとうございました。

高知大会副実行委員長
高知県事務局長
宮地 暁 男



日本の夜明けを願ひ、未来の日本について杯を酌み交わしながら、議論し続ける情熱あふれる土佐、そして、まんが文化を世界に発信続けているまんが王国・高知に全国各地から同窓会に関わる方々、社会教育に関わる皆様方がたくさんお越しいただきました。また、オンラインで参加してくださった皆様も本当にありがとうございました。大学院同窓会連携会議の中で森山潤学長がおっしゃった、「学びを続ける中に成長がある。専門性も身に付けることができる。出逢う場、語り合える場を開いていく。そこに、発見がある。」のお言葉を賜りました。

高知大会研究大会のテーマであります「一人一人が主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える学校教育・社会教育の展開」がこれからの未来のまちづくり、ひとづくり・つながりづくり」に結びついていくことを確信できた意義のある大会になったと考えます。

本大会に関わってくださいました森山学長はじめ、多くの皆様に深く感謝申し上げますとともに、来年度の兵庫大会の成功を心よりご祈念申し上げます。

高知大会実行委員
赤松 梨江子

思い返せば、「高知で全国大会をするきい。」とハチキン姐様の号令がかかっ

たのが約1年前。大学院の同窓会がどんなものかも知らず、おとなり徳島県からジワジワと手繰り寄せ(られ)、大会当日を迎えました。



ここにきて大いに役立ったのが学校事務職員時代、全国研究大会運営に数年間携わった経験でした。加えて教育政策リーダーコース修了生の皆様の機動力と、全体運営を支える東中国・四国ブロックの実行委員会と同窓会事務局、地元高知大学の学生さんに社会教育士の皆さんという最強メンバーで、全国からの参加者の皆様を含め全員の力で盛会となったことに、改めて安堵と感謝の思いがよみがえります。全国の修了生の皆様とコースを越えて交わられたこと、1期生の先輩が40期生の私に声をかけてくださった感動はまさに「たまるか〜!!」でした。「昔を懐かしむだけでない未来志向の同窓会」という学長の言葉もまた力になりました。大学の先生方にも心から感謝申し上げます。

初めての大会参加が運営という形でしたが、また参加したいと思える研究大会でした。このつながりを大切に繋ぎながら、皆様との再会を楽しみにしています。「ほいたらね。」

学長講話
「兵庫教育大学の取組と今後のビジョン」

兵庫教育大学
学長 森山 潤 氏

高知県で実施される初めての全国研究大会、南国の地での開催に高知県支部の皆さんの活躍と東中国・四国ブロックの

涯学習課や社会教育主事講習を行って
いる高知大学地域協働学部と連携した
「こうち社会教育・生涯教育研究会」を
立ち上げました。また、2024年11
月23日には、島根大学、香川大学教育
学部主催の社会教育主事講習の受講者
を含めたネットワークで、こうち社会
教育・生涯学習研究大会を実施して、
互いの実践に学び合う、ブラッシュアッ
プの機会とし、社会教育人材ネットワー
ク化の拡大を図っています。このよう
な取り組みの充実によって、学校・地域・
行政が一つのチームになって、子ども
の成長を中心として、地域の多様なス
テークホルダーがさまざまな立場から
知恵を出しあって、効果的な取り組み
を策定し、役割分担をしながら実践す
る体制も整いつつあります。

教育実践発表Ⅱ
「明日の学校教育を地域とともに創る」

高知工科大学教授

長崎 政浩

(11期 言語系コース(英語))

学ぶことの楽し
さや醍醐味を実感
できる授業とはど
のようなものか。
現職の教員と共に
学び、探究してき
たテーマです。



ブッククラブと
いう学び方が中核でした。本を読んでき
て、語り合うというシンプルな方法です。
より深い学びが生まれ、仲間とのコミュニ
ケーションも濃密になります。教員と
の協働による研究プロジェクトもライブ
ワークの一つです。中学生のための英語
語彙リスト作成は、小中高大の教員によ
る共同研究で、全中学生が使用する単

語集の出版という形で結実しました。子
どもたちの成長というミッションが明確
なプロジェクトにおいて、教員は最もエン
パワーされると感じます。最後は、地
域の学校教育関係者が集う教育コロバ
レーション会議の開催です。月1回、対
面で開催。地域の教育が少しずつアッ
デートされていくのを実感します。
今後は、教員が心から夢中になり、
エンパワーされるような仕組みが必要
であると感じます。教員による主体的
な探究活動、学校や教員への権限の移
譲、パートナーとして学校と関わり続け
るインスタラクションナル・コーチの導入
などが求められると考えます。

教育実践発表Ⅲ
「社会教育魂」を活かした学校づくり・
地域づくり」

岡山県高梁市教育長

小田 幸伸

(37期 教育政策リーダーコース)

岡山県教育庁生涯学習課 地域学校協働
活動アドバイザー

安田 隆人

私たちは、教育
事務所や市町等で
社会教育主事とし
て生涯学習の振興
に努めた経験や考
え方を学校や教育
委員会の経営に活
かしてきた。



学校支援地域本部のハンドブック作
成に始まり、新設特別支援学校の子ど
もの社会自立に向けた地域本部づくり、
CSを活用し、生産性を高め、教育の質
の向上を図る働き方改革を実現したり、
CSと地域協働活動の一体的推進の中
で課題解決型学習を充実させるなど、学

校の活動領域や視点の拡大に貢献した。
また、市の社会教育委員会や社会教育
施設の活性化、CSや地域学校協働活動の
全校展開、教育委員会内の協力会議など、
体制強化・風土の醸成に努めた。このこと
が、学校の探求的な学習の飛躍的發展に
繋がった。さらに、市役所内への高校生み
らい共創課の設置、高校内に株式会社
設立など高校の魅力化にも発展している。
「人を動かし、つなぐ」ために社会教
育の視点を持つことで、個人のウエル
ビーイング、社会・地域のウエルビー
イングの実現につながると信じている。



令和8年度 兵庫教育大学大学院同窓会総会
第45回 全国研究大会
【神戸新長田大会】のご案内

- ・開催日：令和8年(2026年)8月1日(土)2日(日)
- ・会場：兵庫教育大学神戸キャンパス
(神戸市長田区腕塚町5-2-1
Tel.078-642-2500)
- ・開催方法：ハイフレックスを予定
- ・お近くの同窓生・同期生をお誘いの上、奮ってご
参加ください。実りある研究大会、懐かしい研究
大会にしましょう。

【ご来賓】

- | | |
|--------------|---------|
| 高知県教育長 | 今城 純子 様 |
| 高知市教育委員会管理主事 | 木村 大作 様 |
| 兵庫教育大学学長 | 森山 潤 様 |
| 〃 理事・副学長 | 森 秀樹 様 |
| 〃 理事・副学長 | 秋光 恵子 様 |
| 〃 副学長・事務局長 | 北崎 哲章 様 |
| 〃 副学長 | 永田 智子 様 |
| 〃 附属小学校長 | 富田 明德 様 |
| 〃 准教授 | 押田 貴久 様 |
| 〃 院生協前期会長 | 龍田 一輝 様 |

教育実践研究活動等に係る表彰受賞者

本表彰は平成22年から実施しています。兵庫教育大学大学院学校教育研究科の修了生本人または構成員とする団体の教育実践研究活動等における顕著な成果や功績に対して、学長と同窓会長の連名で表彰を行うものです。令和7年度は役員推薦による3名が受賞されました。

役員推薦

賞	氏名	主な教育実践研究活動	専攻・コース・期
嬉野賞	長崎 政浩	高知県立高等学校英語教諭を皮切りに、高知県教育センター研修指導部指導主事（1997～2001）や、高知県教育委員会事務局高等学校課学校教育班長（2006～2007）、同事務局高等学校課チーフ（2007～2008）を歴任後、高知工科大学に異動。 地域教育や四国の英語教育推進に邁進し、高知工科大学地域教育支援センター長などを歴任、今なお現職として同大学での教育や高知県を始め四国の地域教育連携を推進し、地域教育に関する興味深いYouTube配信を行うなど幅広く活躍されている。	教科・領域教育専攻・言語系コース（英語）・11期
嬉野賞	傳法谷 肇	兵庫教育大学大学院「学校経営コース」と「教育政策リーダーコース」の両コースを修了された。 大学院修了後に、北海道教育委員会主任指導主事、帯広市教育委員会統括指導主事を歴任。一貫して教育指導や教育計画策定に関わり、教育現場で活躍している。その中で、兵庫教育大学大学院での学びと研究成果を活かし、教育行政職として勤務の傍ら、教育政策や学校改善などに関して、多様な研究を重ねている。 研究成果として、「持続可能なコミュニティスクールの取組として、学力向上、新教科の設立による児童生徒の向上を目指すプランの構築」や「地域社会のつながりを醸成するカリキュラムの編成」、「学校やメタバースを活用したコミュニティの創出」、「幸せの実感と児童生徒の資質・能力の向上を図るプランの策定」がある。 また、社会に開かれた教育課程を実現するために、ふるさと納税を活用するなど、多くの成果を収めた。	教育実践高度化専攻・学校経営コース・34期 教育実践高度化専攻・教育政策リーダーコース・44期
奨励賞	高田 哲史	大学院修了後、岡山県立高等学校保健体育科教員として、また日本体育・スポーツ・健康学会体育哲学専門領域の研究者として多くの研究を行った。 2010年9月に広島大学大学院教育学研究科博士後期課程を単位修得退学した後は、「近代日本の体育哲学」をテーマに研究活動を続けている。 2011年に、就実短期大学の教員として、2015年に関西福祉大学教員として、高等教育に邁進し、2016年に「健康フィットネス教室」を開催し、地域の住民の健康づくり活動に貢献した。 2021年大学退職後も、体育・スポーツの哲学的研究を継続する中で、地域の高齢者のための仲間づくり・健康づくり活動を実践している。	教科・領域教育専攻・生活・健康系コース（保体）・10期





同窓会総会・全国研究大会
参加者 68名 (オンライン5名)



情報交換会



巡検
高知市内参加者22名



皆様のおかげで
楽しく有意義な
二日間となりました